

マグちゃん通信

2019 4 - 5 vol. **55**

絵本作家インタビュー 荒井真紀

特集 西アフリカ・ベナンの
挿絵画家



寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『あはれになあれ』
弓削健介／詩
松成真理子／絵
瑞雲社



『さかなちゃん』
平田昌広／作 平田景／絵
少年写真新聞社



『かどこいた?』
鈴木のりたけ／作 絵
小学館



『さるのてぶくろ』
花岡大学／作 野村たかあき／絵
鈴木出版



『ぼくは フクロウ』
フィリップ・バンディング／作
木坂涼／訳
BL出版



『ねこです。』
北村裕花／作
講談社



『まめとすみとわら』
せなけいこ／ぶん・え
廣済堂あかつき

むかしむかしあるところで、豆をにいていました。すると、一つぶの豆が、びよーんと、とびだしました。それを見て、おなべの下の火の中から、一本のわらとすみが一かけ、とびだしてきました。「おーい、どこへいくの?」「ぼくもつれていってよー」と、わらとすみがつくと、豆は「そうだ、みんなであたりにでよう」と言ったのです。どうしてそら豆に黒いスジがあるのかが分かる民話を、シンプルな絵で表現したあたかみの一冊です。

絵本館日記



1月4日(金)

仕事始め。スタッフそろって隣の鳥取神社へ参拝。ちなみに今年にはスタッフの中に年女が3人います。開館25周年の年、猪突猛進、体当たり精神で新しいこともチャレンジできる年になれば良いなと思いました。冬の青空に立山連峰が映えるとても気持ちの良い一日でした。

1月6日(日)

ジャンボかるた大会は今年も大盛況。ところで今のかるたは13年前に作ったもので少くたびれてきたよう。リニューアルを検討しています。ムズムズくんやマクちゃん、白エビや紅スワイガニ、当時は読み札に入れなかった射水の自慢をたくさん入れなくては!

1月14日(祝)

成人の日。朝刊のコラムに柳田邦男さんの「人は人生において三度、絵本と出会う」という言葉が引用されていました。もし新成人に絵本を贈るとしたら、私は「たぐさんのドア」(主婦の友社)を選びたいです。自分の可能性を信じて思い切り生きてみよう!そんなメッセージを伝えられる絵本です。

1月23日(水)

今週末、絵本館で富山情報ビジネス専門学校・ブライダル学科の学生さんたちがプロデュースする結婚式が行われます。今日はその準備の日。本番を想定しながら動線や飾りつけをひとつひとつ丁寧に確認しています。そんな姿に初々しさと頼もしさを感じました。その熱意が伝わるといいですね。

2月14日(木)

去年の大雪とはうってかわって今年は暖冬。市内ではほとんど積雪もありません。開館前の除雪もなく、毎年大活躍の小さな赤い除雪車が通用口ではこりをかぶっています。このまま逃げ切れるとよいのですが、今年は桜の開花も早いそう。5年前に植えたパークの桜もずいぶん大きくなりました。

(記録・麦谷)

利用案内

開館時間	9:30~17:30	交通案内	北陸自動車道小杉I.C.より車で10分 富山きときと空港より車で40分 あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分 ※新幹線はJR富山駅またはJR新高岡駅で下車 富山地铁バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分
休館日	毎週月曜日(祝日の場合翌日) 月1回資料整理日 年末年始(12月28日~1月4日)	駐車場	約60台
入館料	大人600円、高校生300円、小中学生100円 ※射水市在住の中学生以下は入館無料 ※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円 ※各種福祉手帳をお持ちの方は無料	貸館	カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。 個展、コンサート、発表会などにご利用ください。
フリーパス	個人フリーパス 年間1200円	講座	絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座を行っています。
親子フリーパス	射水市在住で、小学生未満のお子様の保護者の方は無料		
いみず子どもフリーデー	射水市在住の小中学生は土・日・祝日に限り無料		



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS
マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp

あら まき 荒井真紀

身近な自然に目を向けることは
人間の暮らしを
より豊かにしてくれる

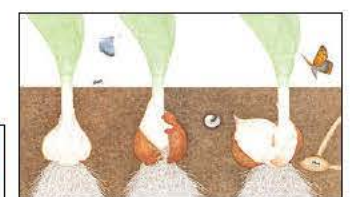


荒井真紀(あらい まき)プロフィール

1965年、東京生まれ。駒澤大学仏教学部禅学科卒業。
16歳の時より、故郷田千佳慕氏に師事する。自然科学専門の編集プロダクション勤務を経て、フリーのイラストレーターに。主な作品に『あさがお』『ひまわり』『たんぽぽ』(金の星社)、『チューリップ』(小学館)、『あずき』(福音館書店)、『まるいもののなかに』(ポプラ社)などがある。1984年、第1回国立科学博物館主催ボタニカルアート展佳作に入賞(同展第2～第4回3年連続入選)。2014年、『ひまわり』が、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選ばれる。2017年、『たんぽぽ』で、プラティスラヴァ世界絵本原画展「金のりんご賞」を受賞。

絵本原画展開催
平成31年3月30日(土)～5月30日(木)

原画展示絵本



『チューリップ』(小学館)
あかきいろ、むらさき、オレンジ。春にさくチューリップは、タネではなく、球根で育ちます。秋に球根を植え、つめたい冬を土の中で過ごし、春に芽を出します。土の中で、球根はどうなっているのでしょうか?



春のギャラリーでは、科学絵本の『チューリップ』と『あさがお』の2冊をご紹介します。植物の持つ特性を変えずに描かれた、細密なボタニカルアートをご堪能下さい。

荒井真紀先生にインタビュー



絵本作家になられたきっかけは?

イラストレーターになってしばらくの間、自然科学をテーマにした書籍や雑誌に挿絵を描いていました。その時に、ある編集者の方から「絵本を描いてみませんか」と声をかけて頂きまして、そのことがきっかけで、絵本の仕事をするようになりました。

画材は何を使っていますか?

透明水彩です。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『チューリップ』

担当の編集者の方のアドバイスで、テーマとなる植物だけでなく、昆虫など、その植物のまわりにいる生き物も描き込んでみた作品です。苦勞した部分もありますが、とても楽しい作業でした。

『あさがお』

単行本として初めて描いた絵本でした。ですので、無事に企画が通るかどうかが、締め切りまでに描き上げることができかなど、最初から最後まで、無我夢中で緊張しながら描いた作品でした。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は?

『あずき』です。小豆の栽培にはとても苦勞しました。絵本を描くために栽培したわけですが、ある程度、数を収穫できるようになるまでに3年かかってしまいました。また、内容的にも、単なる食べ物としてではない、小豆の文化的な側面も盛り込んだり、それまでにない試みにチャレンジしてみた作品でした。それだけに印象に残る作品となりました。

絵本をお作りになるときのこだわりは?

できる限り、手元で栽培して、観察することです。タンポポは野生のものですから、近所から引っこ抜いてきて、花壇に植えて観察しました。

絵本を通じてお伝えになりたいことは?

私は主に植物をテーマにして絵本を描いていますが、ページ数が限られているため、その植物についてほんの一部しか紹介することができません。ですので、私の絵本をきっかけに「この植物についてもっと知りたい」と興味を持ってもらい、さらに自分で調べたり、観察してもらえようと思ったらいなと思って作品を描いています。

今後どのような絵本を描いていかれますか?

これまで同様、身近な植物や生き物をテーマにした絵本を描いていきたいと思っています。

ご趣味についてお聞かせください。

特に趣味はないのですが、近所を散歩して、季節に咲く植物を見て回ることが好きです。

好きな言葉を教えてください。

大事にしているのは、「一期一会」という言葉です。年齢を重ねるごとに、これまで以上に人との出会いや出来事を大切にしたいと思うようになりました。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

私の絵本をお読み下さっている皆様、本当にありがとうございます。私は、身近な自然に目を向けることは、人間の暮らしをより豊かにしてくれるのではないかと思います。自然は、私たちが生きていく上で参考になるような知恵を、たくさん与えてくれるからです。これからも、そんな思いを胸に作品をつくっていきたいと思っていますので、お読み頂ける機会がございましたら幸いです。

荒井真紀先生、ありがとうございました!

荒井真紀先生のサイン入り絵本を3名様にプレゼント



『あさがお』(金の星社)

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館 荒井真紀 サイン本プレゼント係
締め切り 2019年5月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。

『あさがお』(金の星社)
小さな種から芽がでて、ふた葉をひろげ、つるをのび、つぼみがふくらみ、色とりどりの美しい花を咲かせ、また種ができる……。あさがおの一生を描いた絵本。美しい細密画が、自然のふしぎ、命の神秘を伝えます。



しかけの部の最優秀作品は
賞金100万円
(書籍化します)

募集がはじまります

一般の部の最優秀作品は書籍化します



おしま 国際手づくり 絵本コンクール 募集要項2019

2019年5月8日(水)~17日(金) 必着

未発表の手づくり絵本 (テーマは自由)

作者が18歳以上であること (高校生は不可)

(1) 一般の部 (2) しかけの部 「しかけ」が盛り込まれた絵本を募集します。

※詳しくはお問い合わせください。

射水市大島絵本館 白鳥倶楽部

会員募集のご案内

大島絵本館をまるごと楽しめる
お得な年間会員になりませんか?

入館無料券と、すべての有料イベントの
ペア入場券のほか、絵本、カフェドリンク券、
『マグちゃん通信』のお届けなどの特典が
あります。会費は10,000円です。

◎詳しくはお問い合わせください。

絵本館 創作教室2019

登録家族募集

バラエティに富んだ素材を使って、親子
で楽しむ「ものづくり」。年10回の教室です。

- 募集期間 / 平成31年3月~
- 登録代 / 1家族1000円
- 材料代 / 各回600~1,200円

※詳しくはお問い合わせください。

絵本の中から「こころはな」
ひょうたんやさんはやしみの展覧会
とき/7月18日(木)~8月2日(金)

ギャラリー
加藤三 絵本原画展
とき/6月1日(土)~7月18日(木)

「りきしのほし」(イラスト・プレス)
「おさかないちは」(講談社)

イベントレポート

ひなまつりミニコンサート 2/24

早春の温かな陽が差し込むパフォーマンスホー
ルで「ひなまつりミニコンサート」が開かれました。演
奏を披露したのは石田雅枝さん(箏)と尾島理英
子さん(ピアノ)。お二人は和楽器と洋楽器のジョ
イントコンサートを県内各地で開催しておられます。

この日の演奏曲はひなまつりの定番「うれしいひ
なまつり」やディズニー映画「白雪姫」の「いつか王
子様が」など。初めて「箏」をまじかに見たお子さん
たちも多く、弦を弾く姿に興味深げに見つめていま
した。また演奏の合間にはクイズコーナーもあり、石
田さんから箏が竜の形を表していることや、爪が象牙
でできていることなどを教わりました。

この日は「家族に1冊絵本プレゼント」も同日開
催され、館内は大にぎわい。女の子も男の子もそし
て大人も、みんなでひなまつりをお祝いするとでも
幸せな一日となりました。



創作教室レポート

第7回「まんまるぽかぽか」 12/15・16



材料はなんと白い靴下。
わたを詰めてタコ糸でくび
れをつくれば...かわいい雪
だるま!カラフルな靴下や
布で帽子やマフラー、そして
目や口をつくって、表情豊か
な楽しい雪だるまの家族が
できました。両腕いっぱい
抱えて、雪だるまもお子さ
んたちも嬉しそうでした。

第8回「ジャンボかるた大会」 1/19・20



年の初めの創作教室では、
工作は一休みして、ジャンボ
かるたで盛り上がりました。
裸足になつてかるたを囲む眼
差しは真剣そのもの。白熱し
た戦いが繰り広げられ大いに
盛り上がりました。幼いお子
さんの部では、お母さんにフオ
ーしてもらいながらかるた
を探し歩く微笑ましい姿も
見られました。

6・7月イベント

シアター・パフォーマンスホー
ル
福田りゅうぞうファミリーコンサート
とき/6月23日(日)14時~15時
出演/福田りゅうぞう
料金
大人1500円・3歳~高校生600円
テンペラレンズ展2019
とき/6月13日(木)~27日(木)

絵本プレゼント
とき/7月15日(祝)9時30分~16時30分
ご来館のご家族に1冊絵本をプレゼント。
※当館指定の絵本からお選びいただけます。

王冠と卵 きたやまちと &
atelier eat お話とモチーフ2人展
とき/6月1日(土)~14日(金)

Color-Memo-the colors from memories
末永征士個展
とき/6月15日(土)~7月2日(火)

ガラスに込めた物語 Vol.3
蜻蛉玉丙午作品展
とき/7月3日(水)~17日(水)

特集 / 西アフリカ・バナンの 挿絵画家



村田 はるせ
アフリカ文学研究者・翻訳者

夢をかなえたロジェさん

西アフリカのバナンは一九六〇年まで
フランスの植民地でした。その影響は今も
残り、公用語はフランス語です。道で見か
ける看板もお役所の文書も新聞もフラン
ス語で書かれ、学校の授業はフランス語で
おこなわれます。私はこうした国で出版さ
れる絵本を研究し、日本で紹介する活動を
しています。

二〇一八年十月には、バナンで数多くの
絵本の挿絵を描いてきたロジェ・ボニ・ヤラ
チャウさんに話を聞きました。ロジェさん
は二〇一三年に「おじいちゃん和ザヌー」
という絵本で、フランスのサンテグジュベ
リ賞を受けました。

現在四十九歳のロジェさんですが、かつ
ては「画家になる」という夢を父親に大反
対されました。「絵では食べていけない」と
いわれたそうです。そこで一度は電気技師
の見習いになりますが、やがて激しい頭痛
に苦しめられます。仕事ができなくなった
彼はそのまま、親しくしていたある画家の
弟子になってしまいました。父にこのこと
を伝えようとしたロジェさんは、手紙にこ
う書いたそうです。「お父さん、ぼくが将
来仕事を見つけれられるよう、懸命に考え
てくれてありがとう。でもぼくは自分がほ
んとやりたい仕事をしたんだ。心静か
にできる仕事をして、少しでもお金を稼
ぎたい」。やがてロジェさんが画家として独

り立ちすると、父と息子は和解します。
ロジェさんは、お金のない友人が毎日
やってきて彼の絵を眺め、「いいね、これ好
きだな」といったら、ついその絵をあげて
しまうそうです。絵の価値は数値や値段で
は本当には示せません。そういうものを人
はなぜか愛でたり、感動したりします。絵
がもつそのような力をロジェさんはよく
わかっているのでしょう。

彼が子どもの本の挿絵を描くのも、絵の
力が子どもの心を動かし、物語の世界に導
けると知っているからだだと思います。幼
い子どもはそうやって絵に付き添ってら
うことで、物語を存分に旅できるのです。
ロジェさんは「本は子どもに、自分が生
きる環境のなかでは自分がどんな人間な
のかを教えてくれる。よその世界で起きて
いることに気づかせてくれるのも本だ」と
語りました。本はそのように大事な役割を
果たすものなのですね。そういうロジェさ
んは子どものころ、図書館に足繁く通っ
ていたそうです。

『おじいちゃん和ザヌー』の原書は国際子ど
も図書館にあります。書誌情報は以下です。
Zannou sur les traces de grand-père, Béatrice
Lalinn Gbado, Roger Boni Yatchaou,
Editions Ruisseaux d'Afrique, [2011]

私のおすすめ絵本

『マングローブの木
アフリカの海辺に緑の森に』
スーザン・ロス / 文・コラージュ
シンディ・ランボア / 文
松沢あさか / 訳
さくら書房



アフリカ東部、アラビア半島に面したエリトリアの海辺に女
性たちがマングローブを一本、一本と植えたら、海も暮らしも
豊かになった。このアイデアを考えついたのは日系アメリカ人
のゴードン・サトウ博士。戦争中の強制収容所での体験がアイ
デアのもとになっているという。

『岩になった鯨』
ふくもとまじ / 文
黒田征太郎 / 絵
石風社



龍にあこがれ、山を登った鯨の物語。この絵本を読むと、迷
っていてもぐぐん前に進もうと励まされる。力強い挿絵のた
めだろう。

『おじいさんの
プッシュタクシー』
クリスチャン・エバンニヤ / 作・絵
さくまゆみこ / 訳
アートン



プッシュタクシーは、セネガルの町から町へと人々を運ぶ小
さなバスのような乗り物。このタクシーは人々だけでなく、結
婚、出産といった人生も運ぶ。エバンニヤが描くこの西アフリ
カ世界を見よ!

『セネガル
貝がら島のマドレーヌ』
世界の友だち30
小松義夫 / 写真・文
信成社



セネガルの小学生マドレーヌの一日が写真で丁寧に紹介
されていて、友達と遊びにいったような気持ちになる。
チャブケジャという郷土料理は作り方が紹介されているので
自分でも作れそう。

『アヤンダ
おおきくなりたくなかった おんなのこ』
ヴェロニク・タジョ / 作
ペルトラン・デュボワ / 絵
村田はるせ / 訳
風潮社



戦争とは、巻き込まれた国の人々全体を傷つけると語る。
そしてそれでも子どもたちが人生に再び向き合えるよう、深く
願う絵本。コートジボワール作家が書いた絵本。

『ツバメ』
トマス・ミュー / 作・絵
堀越グッテ 由子 / 訳
エディション・エフ



ヨーロッパとアフリカ南部を半年ごとに往復して生きるツバ
メの一年を追った絵本。自然が生み出す鳥の造形の美しさを
表現した挿絵。鳥たちの旅の壮さに驚かされる。